

第1回 JR古賀駅周辺開発推進協議会 議事要旨

日時	令和5年9月6日(水) 14時00分～16時00分		
場所	古賀市役所 501,502,503 会議室		
出席者 (敬称略)	委員	福岡大学工学部社会デザイン工学科 教授	柴田 久
		熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 教授	星野 裕司
		ニビン醤油株式会社 総務部 取締役総務部長	玉谷 武志
		古賀市行政区 古賀東区長	高原 敏裕
		古賀市行政区 古賀北区長	森田 清彦
		古賀市行政区 古賀南区長	馬場 實
		福岡女学院看護大学 事務部長	武井 秀仁
		花鶴タクシー有限公司 代表取締役	保井 亨
		株式会社古賀タクシー 代表取締役	後藤 正典
		西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 営業部 営業第二担当課長	中島 将吉
		九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 経営企画部 鉄道・開発計画・モビリティサービス推進室 担当課長	高木 圭一郎
		粕屋警察署 交通第一課長	下川 陽一
		(代理)独立行政法人 都市再生機構 九州支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 まちづくり支援課 課長	三戸 勇二
	事務局	建設産業部 古賀駅周辺開発推進課	
オブザーバー	株式会社都市環境研究所 計画グループ 企画・設計室 室長	村瀬 大作	
	株式会社モビリティデザイン工房 代表取締役	五十嵐 淳	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 委員名簿 ・資料2 次第 ・資料3 JR古賀駅周辺開発推進協議会の設置と進め方 ・資料4 JR古賀駅周辺開発推進協議会要綱について ・資料5 議事の公開について(案) ・資料6 JR古賀駅西口周辺の状況と課題について ・資料7 JR古賀駅西口周辺整備基本方針について ・資料8 社会実験について(案) 		

<議事要旨>

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員紹介
4. 会長・副会長選任

委員の互選により、会長を柴田委員、副会長を星野委員に決定

5. 説明および意見交換

(1)JR古賀駅周辺開発推進協議会の設置と進め方について

JR古賀駅周辺開発推進協議会の設置と進め方について説明(事務局)

(2)JR古賀駅周辺開発推進協議会要綱について

JR古賀駅周辺開発推進協議会要綱について説明(事務局)

【意見交換】

(3)議事の公開について

議事の公開について説明(事務局)

(4)JR古賀駅西口周辺の現況と課題について

JR古賀駅西口周辺の現況と課題について説明(事務局)

【意見交換】

(委員)

人口が増えない原因はどこにあるのか。

また、古賀駅周辺を全て商業地区にし、道路の拡張を考えないといけない。早く全体的な人口を増やす段取りをしないと西口エリアの店が無くなる状況である。駅にも早くエスカレーターを付けてもらいたい。

(事務局)

今回、市長も古賀中周辺において新たな住宅地の構想を打ち出しており、特に生産年齢人口が増えるような政策はとっていききたい。

(柴田会長)

現状と課題を細かく分析し、どこから集中的に着手するのかというまちづくりの戦略が非常に重要である。

(委員)

今後、人の流れをどのように増やしていくのが良いかを考えていくと、もっと発展していくのではないかと考える。

(オブザーバー)

住んでいる方などが街中に賑わって溢れてくるような場所にしていきたい。

(柴田会長)

人の流れは目的のある流れと、ふらっと立ち寄るような流れといろんなバリエーションがある。その同線のように作っていくのが非常に重要である。今後もしっかりその辺りを考えていかなければならない。

(事務局)

用途地域について様々な課題も出ており、データ分析も必要だろう。その結果なども踏まえ相応しい用途を考えていきたい。東口に関しては先行して検討してきたが、古賀市の都市計画マスタープランについても商業系の用途に変更したいと明記している。

(委員)

西口を開発するにあたり、用途地域を変更しなければ、このままの状況が続くだろう。行政が考えていくのは商業地区の選定が1番だと思う。

(柴田会長)

大きなマンションが建設されることが古賀の魅力や、らしさに繋がるのか検証は必要である。それを踏まえて大きなまちづくりの方針を打ち出していくべきだろう。

(委員)

既存の住宅地や商店街がたくさんある中で、用途地域を変更することも一つの考えだが、本当にそれが活性化に繋がるのか、住民が望んでいる姿なのか、しっかり考えていかなければならない。

(柴田会長)

今の西口の雰囲気はどう活かして人を賑わせていくのが重要。どのような方向性が一番古賀の魅力や、

古賀らしさに繋がって人を呼び込めるかということを継続的に考えていかなければならない。

(委員)

近年、土地が建売住宅に変わっている。1戸の住宅が2戸、3戸というような開発をされ、その前だけをセットバックで道が広がっており、ちぐはぐな計画になっている。菰野の踏切から東口に抜ける線路沿いの道を使うと住宅の中を通らず周回道路として広めの道路ができないか。計画ができたということは理解しているが、柔軟に対応していただきたい。

(柴田会長)

今後確認していきたい。

(星野副会長)

歩行者や車の流れ方などについて古賀駅東西で何か連携などはあるのか。

(委員)

東西を繋ぐアンダーパスを2カ所くらい設置したらどうかという意見がある。

(オブザーバー)

東西をどう繋げていくか、行き来のしやすい環境をつくっていくのが重要なポイントである。

(柴田会長)

資料の11ページで、東口周辺エリアに必要だと思う空間が、待ち合わせスペース、公園緑地などの緑豊かな空間、駅から郵便局・公民館・図書館等までの安全で歩きやすい空間の3つが高いが、これは東口のガイドラインの内容とも合致している。今後東西の連続性をどう作っていくのが課題となるだろう。

(5)JR古賀駅西口周辺整備基本方針について

JR古賀駅西口周辺整備基本方針について説明(事務局)

【意見交換】

(委員)

1か所でもアンダーパスを設置して踏切の交通を何とかしてもらいたい。

(星野副会長)

大きな問題は、資料の2ページと皆さんの実感が少しずれていると考えている。例えば菰野の踏切は道路ネットワーク上では、古賀橋で渡って県道清滝古賀線で国道495号線に出るというような位置づけになっているが、実際はこのように動いていない。この計画と皆さんの動きの認識をどう合わせていくのか、また認識を踏まえこの計画を変えるということもある。そこがすごく重要だろう。

(柴田会長)

アンダーパスについてのニーズや、方針案がしっかり合致しているか検証が必要だろう。

(星野副会長)

資料の4ページでサンリブ古賀店から憩いの広場の間を南に抜けていく道が、歩行者調査などからも意外と人通りがある。今の計画ではこの道が一つの歩行者メインの軸となっているが、地元の皆さんの実感と合っているのか、ご意見があれば伺いたい。

(委員)

南北の道路というより駅東西をアンダーパスで繋がられないかという意見は出ている。

(委員)

今回の社会実験では賑わいを創出するという一方で、道路幅は変えないという認識で良いか。

(事務局)

現在の駅前広場は暫定的に整備されたものであるため、本整備に向けて駅前広場の大きさや接続道路については検証していきたい。

(柴田会長)

新宮・古賀・福津・宗像のしこむエリアの中で、古賀は他の3駅と比べて駅周辺の小売店舗数が一番多いのが特徴であり売りである。小売業の集積をどのように街の賑わいに繋げていくかが大事である。道路もネットワークとして重要だが、大きい道路を通すために古賀のらしさがなくなってしまう方がいい方向に行くのか悪い方向に行くのか、しっかり考えていかなければならない。

(6) 社会実験について

社会実験について説明(事務局)

【意見交換】

(柴田会長)

まちかどのイベントの内容などはこれからか。

(事務局)

具体的な内容についてはこれからだが、交通社会実験期間中(11月15日～26日)の間の11月25日(土)にイベントを予定している。交通社会実験では自動車の流れを抑制し、歩行者がいかに回遊できるかという検証を図りたいため、西口エリアでまち歩きイベントの実施を考えている。また、古賀市はスケートボードやBMXなどのアーバンスポーツが約20年前から活動しており、全国的にも有名な場所となっている。そういった資源を活用しながら、サンリブの駐車場で子供も大人も楽しめるようなアーバンスポーツの体験会ができればと考えている。この2つのイベントを通して歩行者の回遊性を検証していきたい。

6. 次回以降のスケジュールについて

次回以降のスケジュールについて説明(事務局)

7. 閉会

以上